

# MWSを使用した回復期での 就労支援の一例 ～機能訓練から復職に至るまで～

## 第11分科会

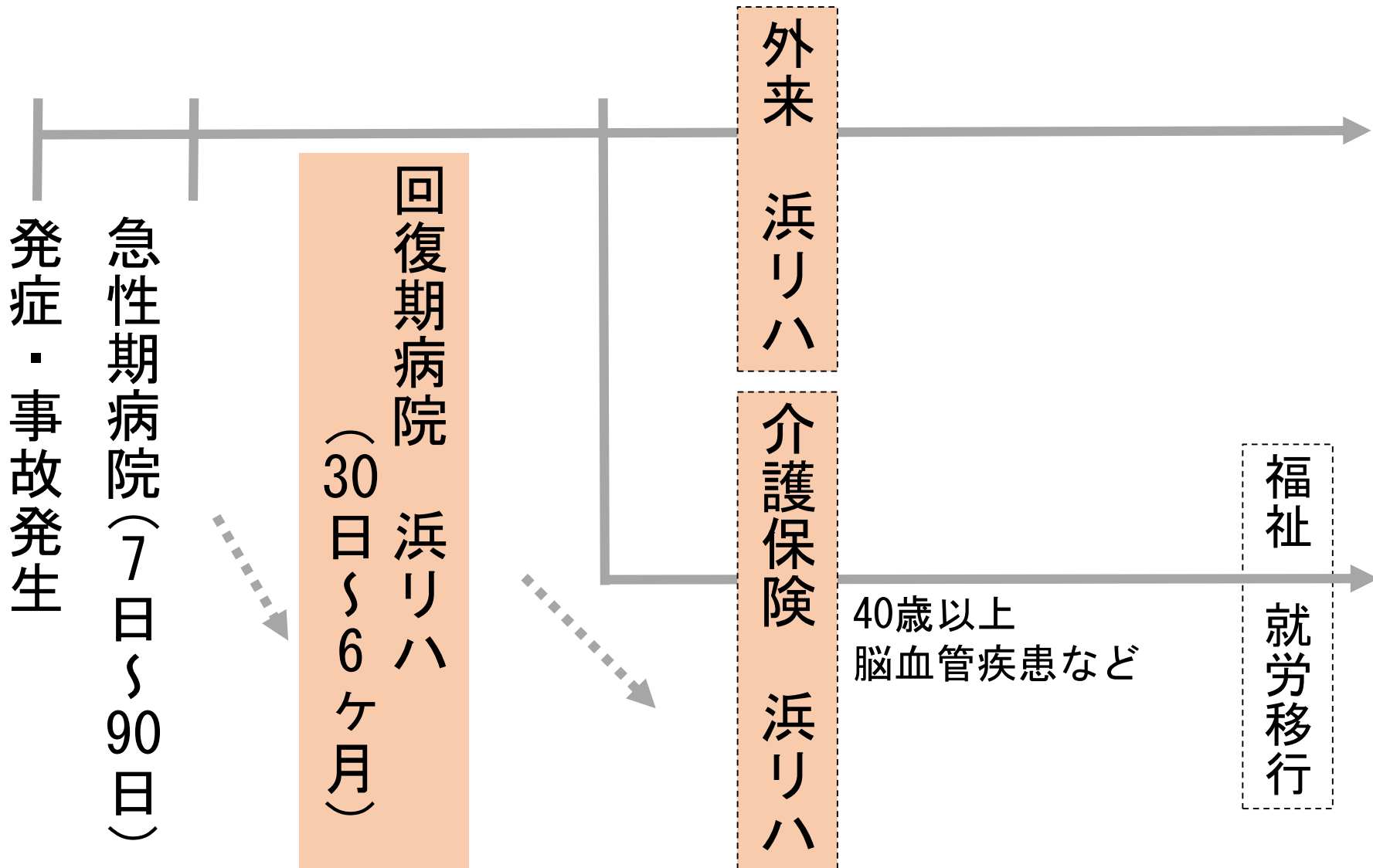
- 阿部 幸栄（浜松市リハビリテーション病院 作業療法士）  
上杉 治・和久田 祐里（浜松市リハビリテーション病院）

# はじめに

- 我が国の脳卒中有病者数は約177万人と推定.  
その内の約30%は就労年齢の65歳未満であり  
「若年性脳卒中」に該当.
- 障害者の社会参加・就労は重要なリハビリ  
テーションの目標である.

(佐伯ら 2017年)

# 医療で行う就労支援



# 当院で行う就労支援 ～入院～

## ➤ 目的

病態の把握，医学的に必要な管理・ケアをする，  
職業準備性の考え方を基盤に，入院中に可能な範囲での土台  
づくりをする。

## ➤ 主な支援内容

- **神経心理学的検査** : 障害像を明確にする。
- **作業能力評価 (MWS)** : 地域移行時の情報提供として使用。
- **ADL/IADL訓練** : 在宅生活の自立は働くための基本。
- **院内で確認できる自己管理能力評価・訓練**  
: 服薬や時間管理，病棟ルール遵守。
- **職場面談** : 職場や家族から求められた，  
あるいは早期復職事例に対し実施。

# 医療で行う就労支援 ～外来～

- **神経心理学検査**
- **MWS**：作業評価，訓練
- 日常生活形成支援
- 症状のマネジメント：神経疲労・記憶・症状教育
- 機能訓練：腕の機能訓練，歩行や全身状態
- **繋ぎの支援**：障害福祉サービス，ジョブコーチ，  
職業センター，企業，相談支援  
事業所，地域包括

# 医療で行う就労支援 ～実績～

## 【2021年度実績】

就労支援対象者 **160名** (57.6歳±10.5)

男性 **116名** (56.8歳±11.5)

女性 **44名** (55.3歳±11.5)

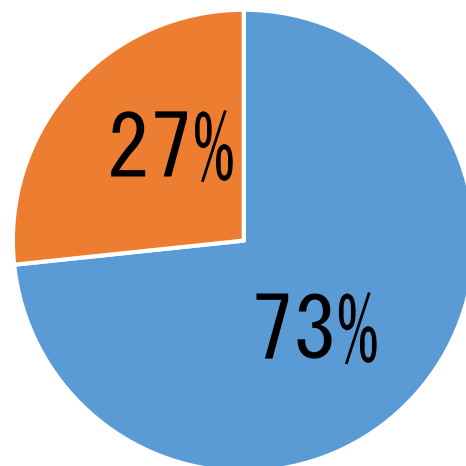
|      |                              |       |       |
|------|------------------------------|-------|-------|
| 復職可  | <b>80名</b> (復職率 <b>50%</b> ) | 男性54名 | 女性26名 |
| 復職不可 | 31名                          | 男性26名 | 女性5名  |
| 支援中  | 49名                          |       |       |

# 当院での就労支援の様子



# 当院の自動車運転支援について①

|    | 男   | 女   | 合計  |
|----|-----|-----|-----|
| 人数 | 198 | 72  | 270 |
| 比率 | 73% | 27% |     |



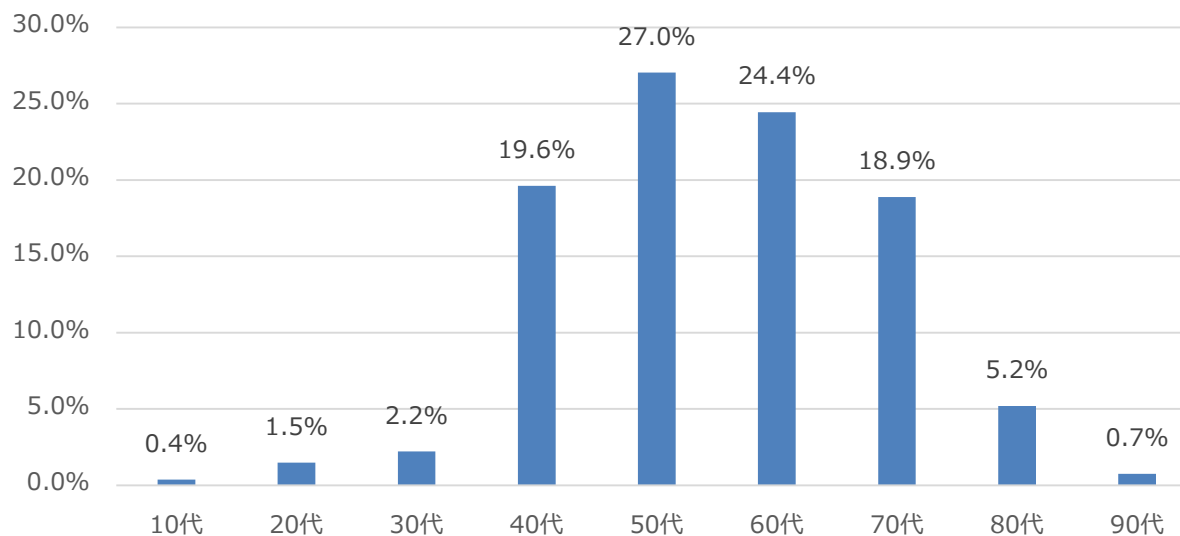
■ 男 ■ 女



# 当院の自動車運転支援について②

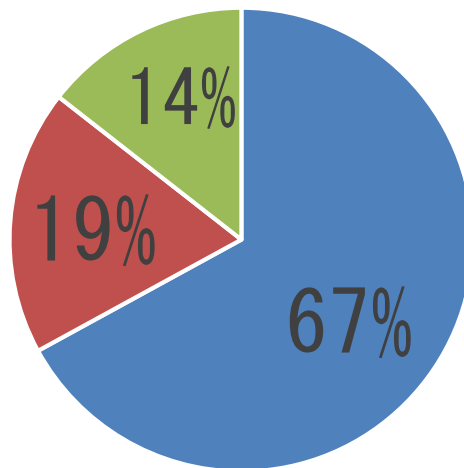
|    | 10代  | 20代  | 30代  | 40代   | 50代   | 60代   | 70代   | 80代  | 90代  | 合計  |
|----|------|------|------|-------|-------|-------|-------|------|------|-----|
| 年代 | 1    | 4    | 6    | 53    | 73    | 66    | 51    | 14   | 2    | 270 |
| 比率 | 0.4% | 1.5% | 2.2% | 19.6% | 27.0% | 24.4% | 18.9% | 5.2% | 0.7% |     |

年代別 平均年齢：59.6歳



# 当院の自動車運転支援について③

|    | 再開  | 再評価 | 不可  | 合計  |
|----|-----|-----|-----|-----|
| 再開 | 181 | 50  | 39  | 270 |
| 比率 | 67% | 19% | 14% |     |



■ 再開 ■ 再評価 ■ 不可

# はじめに

- 復職希望の若年性脳血管障害患者に対し、  
上肢機能訓練と共に自主トレーニングの導入  
とMWSを使用した就労支援を実施し、当院の  
外来に通院しながら復職に至った。
- 回復期病院の就労支援方法としてのMWSの  
有効性について報告する。

※発表にあたり、本人の同意を得ている。

# MWSについて

- MWSが導入されている機関の内訳

福祉施設 .. 72.4%

医療機関 .. 8.6%

→回復期病院で復職支援として導入している報告は少ない.

---

- MWSの導入により，スタッフの評価や訓練の視点の増加. 神経心理学的検査だけで検出できない高次脳機能障害に関する課題の抽出にも役立ったと述べている. (峯尾 2021年)

# 症例紹介①

◆50歳代女性

◆脳梗塞（右放線冠・BADタイプ）

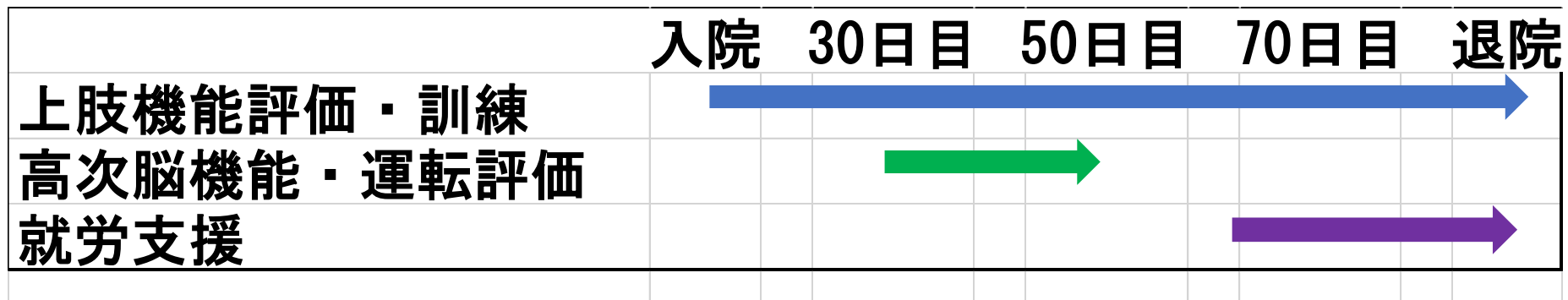
発症（Z日）から13日後に当院へ転院.

|                  |  |
|------------------|--|
| <p>心身機能・身体構造</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 左上肢中等度麻痺（Brs. III - III）</li> <li>▪ ARAT：左 8 / 57 右 57 / 57</li> <li>▪ FMA：43 / 66</li> <li>▪ STEF：左 5 / 100 右 94 / 100</li> <li>▪ MMSE-J：27 / 30（減点：計算・描画）</li> <li>▪ 高次脳：極軽度の分配性注意低下</li> </ul> |
| <p>活動（ADL）</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ FIM：96 / 126</li> </ul> <p>排泄や更衣は見守り，入浴中等度介助。<br/>移動は車椅子使用。</p>   |

## 症例紹介②

|      |  |
|------|--|
| 参加   | 職業： <b>児童養護施設施設長</b><br>趣味：ドライブ，旅行   |
| 環境因子 | 家族構成：独居（市内に妹家族が居住）<br>家屋：賃貸一軒家2階建て<br>通勤方法：車で10分程度                               |
| 個人因子 | 病識があり，問題に対し自己解決できる。<br>課題に対し諦めずに取り組む <b>真面目な性格</b> 。<br>Needs: タイピングができるようになりたい。 |

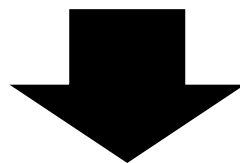
# 入院から退院までの流れ



## 経過① (Z+26日～Z+60日)

### ➤ 上肢機能評価・訓練

- IVES（随意運動介助型電気刺激装置）を10日間実施。  
→ ノーマルモードで総指伸筋に貼付。
- 自主トレーニングメニューの導入。  
機能訓練：ワイピングや手指ストレッチ  
実動作訓練：袖の上げ下げ，食器把持，  
立位で洗顔動作等。



左上肢の随意性が向上し，生活場面での使用増加。  
ADL自立。



## ➤ 高次脳機能評価・自動車運転評価

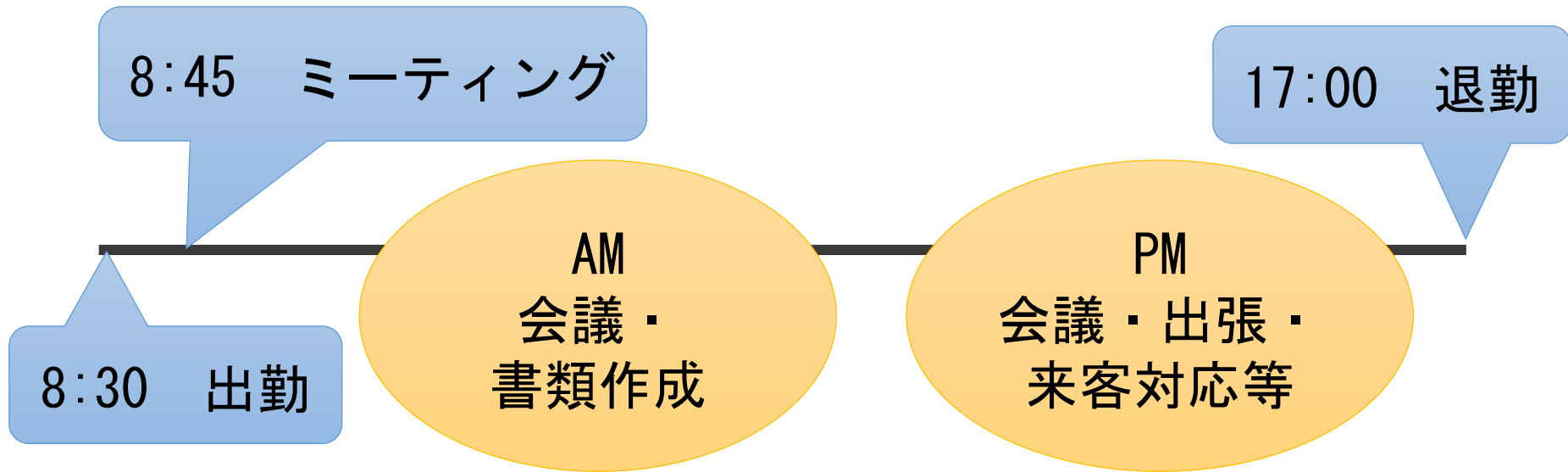
極軽度の分配性注意低下を認める程度。  
運転再開方向となった。

# 入院前の就労について

## ➤仕事について

|      |   |
|------|---|
| 職務   | 社会福祉法人児童養護施設の施設長  |
| 勤務時間 | 週休2日制<br>8:30～17:00（最大18:30まで）  |
| 業務内容 | 主に事務仕事や管理業務<br>（経営・職員の労務管理等）<br>→PCで書類作成，会議への参加，<br>電話対応，来客対応，市内出張，<br>月1・2回の県内出張 |

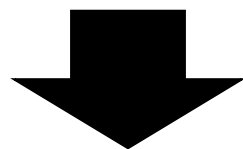
# 1日のスケジュールについて



# 就労インテーク

## ➤ 業務内容を聴取

- 会議の参加や書類作成に必要な長時間の集中力が必要.
- タイピングに必要な上肢機能の獲得.  
(分離した動きや持久性, スピード)
- 職員を管理する立場として遂行能力が必要.



両手でタイピングができるようになりたい!

# 就労支援方法の選択

現状：

- 高次脳機能面は大きな問題無し.
- 自分のペースで左上肢でタイピングが可能.



## MWS（ワークサンプル幕張版）

目的：

- 手指の分離した動きや持久性，スピードに対する上肢機能の改善.
- 長時間の集中力と遂行力.

# MWSの強み

- 年齢平均との比較が可能.
- 実際の業務内容に近い作業評価が行える.
- 個人に合ったレベルで作業が行え、  
段階が踏める.

## 経過② (Z+63日～Z+91日)

### ➤ MWS使用前の現状のタイピング操作の満足度

| 重要度 | 遂行度 | 満足度 |
|-----|-----|-----|
| 10  | 4   | 3   |

### MWS使用前のCOPMの結果

理由：打ち間違えがあったり，スピードが遅い。

## 経過② (Z+63日～Z+91日)

### ➤ MWS簡易版の実施 (OAワーク : 文章入力)

|       |  |
|-------|--|
| 得点    | 9/10点                                    |
| エラー箇所 | 文字変換                                     |
| 作業時間  | 11分33秒 (50歳代平均 : 23分51秒)                 |
| 課題    | 左手関節背屈位での保持持久性の低下, 肩関節や体幹の代償による疲労や打ち間違え. |



## 経過② (Z+63日～Z+91日)

### ➤ 介入

#### 環境調整

手関節背屈位で保持しやすいよう、  
PCのキーボードに傾斜をかける。



理由…キーボードに傾斜をかけることで、手関節の  
接地面が確保され、滞空操作が安定する。

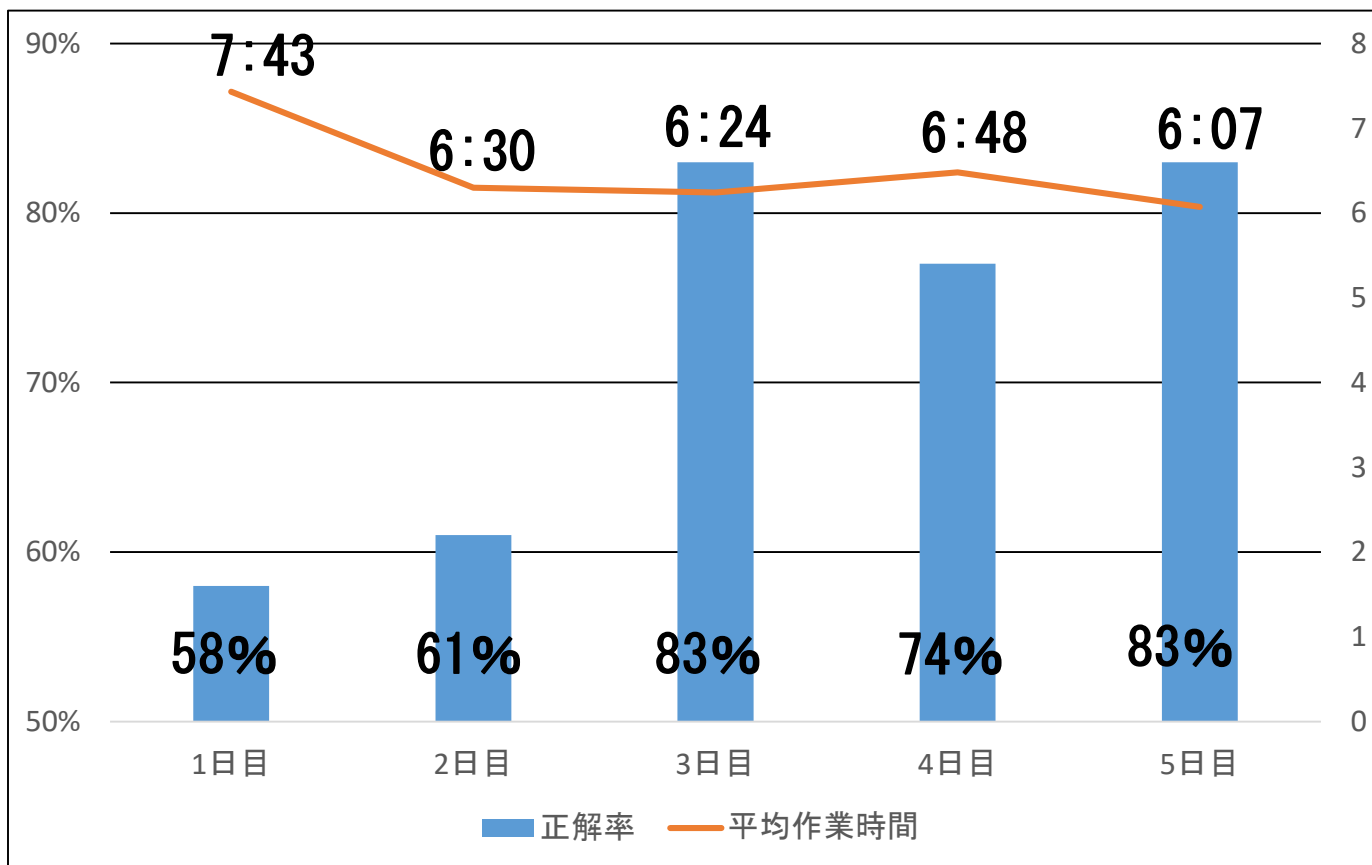
## 経過② (Z+63日～Z+91日)

### ➤ 介入 課題

|      |   |
|------|---|
| 実施項目 | <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ MWS訓練版<br/>0Aワーク 文章入力 レベル4</li> <li>▪ タイピング教材</li> </ul> |
| 実施期間 | 5日間   |
| 実施時間 | <p>MWS：OT訓練時に実施。<br/>6施行数×3ブロック/日</p> <p>タイピング教材：<br/>自主トレーニングとして実施。<br/>300～400字/日</p>           |

# 課題導入結果

- MWS訓練版（OAワーク：文章入力 レベル4）  
→正答率の向上と作業スピードが向上.



# 最終評価

※( )内は入院時の結果

| 心身機能・身体構造   | 活動  |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>左片麻痺 : <b>Brs. V-V</b><br/>(Brs. III - III)</li> <li>ARAT : <b>左55/57</b> (左 8 /57)</li> <li>FMA : <b>59/66</b> (43/66)</li> <li>STEF : <b>左82/100</b> (左5/100)</li> </ul> | <p>FIM : 122/126<br/>(96/126)</p> <p>入浴含め自立</p> <p>移動はT字杖</p> <p>使用</p> |

# 最終評価

## ➤MWS使用後のタイピング操作の満足度

※ ( ) 内はMWS使用前の値

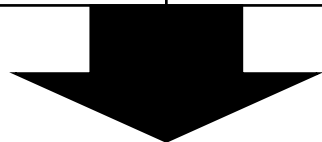
| 重要度     | 遂行度   | 満足度   |
|---------|-------|-------|
| 10 (10) | 9 (4) | 9 (3) |

### MWS使用後のCOPMの結果

理由：入院前と差が変わらなくなった。

# 退院後の経過

| 復職   | 外来リハビリ   |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 退院から2週間後</li> <li>◆ 2～3日/週</li> <li>◆ 8時間勤務</li> <li>◆ 業務内容に変更無し.<br/>必要時フォローを<br/>依頼.</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 1回/週 40分</li> <li>◆ 復職と運転再開後の<br/>様子確認</li> <li>◆ 身体機能改善</li> </ul> |



自分の夢に向かって仕事は退職， 外来も卒業。  
新たな事業を立ち上げて社会参加されている。

# 考察

他の疾患と比べて特に復職上問題になるのは、就業能力に対する直接的影響（身体障害・高次脳機能障害など）が大きいと述べている。 （佐伯ら 2000年）

- 身体障害が復職上問題と判断.

→ 上肢機能訓練の実施.

- MWSと自主トレーニングの導入

→ 復職に必要な環境調整と課題を共有.

本人のNeedsに繋がる

# 考察

## 若年性脳卒中患者は社会復帰が大きな課題

- 回復期でも就労への視点は重要.
- 復職上問題となる課題を早期に判断し、支援方法を選択する.
- 就労への課題を本人へフィードバックし共有する事が早期の就労に繋がる.



# 結語

- ◆若年性脳血管障害患者の社会参加と就労は重要なリハビリテーションである。
- ◆毎日関わる回復期だからこそ、就労に目を向けて早期に就労に繋げる。
- ◆MWSは課題に対して的確なフィードバックと反復訓練が可能。
- ◆回復期病院におけるMWSの使用の有効性が示唆された。